

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19790544

研究課題名(和文)

左室拡張能と炎症反応性蛋白による心房細動、脳梗塞の予測と予後に関する検討

研究課題名(英文)

Independent risks for atrial fibrillation and stroke in adult patients: Left ventricular diastolic function and high-sensitive C-reactive protein levels

研究代表者：宮坂 陽子

関西医科大学・医学部・講師

研究者番号：10343675

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・循環器内科学

キーワード：

- (1) 左室拡張能障害
- (2) 心房細動
- (3) 脳梗塞
- (4) 心エコー
- (5) 肥満

1. 研究計画の概要

(1) 研究対象

関西医科大学附属枚方病院の心臓超音波検査を予定されている成人患者を対象とし、研究対象患者の心房細動、脳梗塞、死亡の心血管系イベント発症の有無を前向きに最低3年間の経過観察を行う。経過観察中に心房細動、脳梗塞、死亡がおこった群と、おこらなかった群間の、臨床的、血液生化学的、心臓超音波の基礎データの比較検討をする。

(2) 研究目的

①左室拡張能障害の心房細動、脳梗塞、死亡への関与の検討

・左室拡張能評価は、心房細動、脳梗塞、死亡の予測因子になりうるか否か。

・左室拡張能障害の程度と、心房細動、脳梗塞、死亡の発生頻度は相関するか否か。

②炎症反応性蛋白の心房細動、脳梗塞、死亡への関与の検討

・高感度CRPは、心房細動・脳梗塞・死亡の予測因子になりうるか否か。

・高感度CRPと、心房細動、脳梗塞、死亡の発症頻度は相関するか否か。

・高感度CRPと左室拡張能障害とは関係があるか否か。

2. 研究の進捗状況

左室拡張能障害やC反応性蛋白は、心血管系イベントの独立した危険因子であるとして現在注目されている。また、心房細動は持続性の不整脈のうち最も頻度の多い疾患で、心房細動を伴う群は、脳梗塞や心不全などの合併症などに伴う入院の頻度・医療費が、心房細動を伴わない群に比べ有意に高いと報告され、心房細動による経済的・社会的負担が今後も増加することが予測されている。

関西医科大学附属枚方病院は平成18年1月から電子カルテシステムを導入し、病院内の全科の医師・看護師記録、検査データ、画像所見、また関西医科大学附属滝井病院、地域医療連携による家庭医の情報といった患者情報すべてが1つの病歴に集積され、対象患者の基礎データ、長期にわたる経過観察が可能である。我々は、現在までに心臓超音波検査を予定された成人患者の1,209人の研究対象患者の経過を追い、心房細動、脳梗塞、死

亡の心血管系イベント発症の有無を現在前向きに調査している。

現在までに、ベースラインの臨床データから、肥満は左室拡張能障害に独立して関与する因子であること、左室拡張能障害は慢性腎臓病に独立して関与する因子であること、C反応性蛋白は慢性腎臓病に独立して関与する因子であることが判明した。今後、平成 22 年度まで研究対象患者を経過観察し、心房細動、脳梗塞、死亡がおこった群と、おこらなかった群間の、臨床的、血液生化学的、心臓超音波の基礎データの比較検討、また多変量解析で予後予測因子を検討する予定である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

現在までに成人 1,209 人の研究対象患者の経過を追っている。平成 22 年度に心血管系イベント発症を調査し、予後予測因子を検討していく予定である。

4. 今後の研究の推進方策

平成 22 年度まで研究対象患者を経過観察し、心房細動、脳梗塞、死亡がおこった群と、おこらなかった群間の、臨床的、血液生化学的、心臓超音波の基礎データの比較検討、また多変量解析で予後予測因子を検討する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 5 件)

(1) Yoko Miyasaka et al. High-sensitive C-reactive protein levels as an independent risk for the chronic kidney disease in adult patients. 第 74 回日本循環器学会総会, 2010 年 3 月 5 日, 京都市、京都府

(2) Yoko Miyasaka et al. Independent risk for the chronic kidney disease in 824 adult patients. 第 73 回日本循環器学会総会, 2009 年 3 月 22 日, 大阪市、大阪府.

(3) Yoko Miyasaka et al. Obesity: An independent risk for the chronic kidney disease. 第 73 回日本循環器学会総会, 2009 年 3 月 22 日, 大阪市、大阪府.

(4) Yoko Miyasaka et al. Obesity as an independent risk for the left ventricular diastolic dysfunction in 814 Japanese adult patients. 58th

American College of Cardiology, 2009 年 3 月 29 日, Orlando, FL, USA

(5) Yoko Miyasaka et al. Risk for the left ventricular diastolic dysfunction in 705 adult patients: the independent risk of obesity. 19th American Society of Echocardiography, 2008 年 6 月 10 日, Toronto, Canada.

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]